

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット共通)

事業所番号	2791600238		
法人名	社会福祉法人 六心会		
事業所名	グループホーム 里(みちのり)		
所在地	大阪府吹田市千里山竹園1丁目50番18号		
自己評価作成日	令和3年4月21日	評価結果市町村受理日	令和3年6月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和3年5月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設9年目の施設になります。他の事業所の特別養護老人ホーム、小規模多機能事業所と同じ建物内にあり、利用者の変動する介護度やニーズに合わせたサービスの提供ができるのが特徴です。また、他の事業所との差別化を図るため、認知症のケアに特化したサービス提供を心がけています。特に音楽療法に力を入れ取り組んでいます。(現在コロナ禍で一部中止)現在ではコーラスの取り組みが「グループホーム吹田合唱団あおぞら」として吹田一円のグループホームに広がっています。また、支援困難事例への取り組みにも力を入れています。そのため人材育成に心がけ外部・内部研修の両方に力を入れて取り組んでいます。また、各ユニットには空調ダクトから除菌防臭効果のある薬品(リスパソNEO=クレベリン)が排出されており、全館の衛生管理が行われています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は地域に根ざした医療と福祉の連携を実現を目指す「平成医療福祉グループ」の一員として、グループの理念「絶対に見捨てない」の介護と設立法人「六心会」の理念「六つの心」の介護の実践に取り組んでいる。法人は利用者のADLの向上の基本第一は各職員の介護力(技術と意識)であると考え、内部研修の充実を図ると共に各種資格取得に金銭的且つ人的支援を奨励している。現在、介護福祉士、認知症介護実践研修終了者、喀痰吸引2号研修終了者が多数勤務している。第二は理学療法士(PT)の指導のもとに職員による日常的リハビリを実施している。嚥下障害の利用者もPTによる指導で胃腸増設に至らず経口摂食でき、利用者の大半が毎食事を完食している。また排泄では利用者全員がトイレで行えるなどADLの向上の取り組みの成果が表れている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	六心会法人理念と離宮千里山ケア方針の唱和を毎日行っています。(離宮千里山ケア方針はグループホーム改訂版・グループホーム里の理念を明記)毎朝の唱和でスタッフに周知できるように取り組んでいます。	職員は朝の申し送り時に、法人の理念「六つの心」とケア方針を唱和している。併設三事業所共通のケア方針は各曜日に個別のテーマを決め、具体的なケアの実践の心構えや方針が示されている。日常の現場でケアについて不安や迷いがあれば常にこのケア方針に立ち返り、職員同士で話しあい、最善のケアを目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍以前は、近隣のケアハウスと祭りの相互訪問での交流や隣の老人ホームとのコーラスの合同練習を行うこと、近所の保育所・幼稚園の園児の慰問や行事を通して交流をしていました。現在では難しい状況です。	施設全体で自治会に加入し、近隣の高齢者施設(特養・ケアハウス・有料老人ホーム)や保育所、幼稚園とは祭りなどの行事で交流が続いてきたり、地域の高齢者に向けてのオレンジカフェ(認知症カフェ)を開いてきたが、現在はコロナ禍の中停止している。コロナ終息後は再開を予定している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍以前は認知症カフェの運営を行い、地域の皆さんに開放していました。学ぶ・相談する・和むをコンセプトに認知症カフェの運営を通して地域貢献に取り組んでいました。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、運営体制、事故報告、活動報告などを報告し意見や提案を伺う会議になっています。令和2年度の運営推進会議はR2年9月、R3年3月の2回感染状況をみながら、とり行うことができました。今後は会議のやり方も含め検討が必要に思います。	昨年度はコロナ禍の中、三事業所合同運営推進会議を2回開催、家族、地区福祉委員、特養第三者委委員、地域包括支援センター職員、統括施設長、各施設代表が参加している。各事業所の運営状況、活動内容、気づき・事故、コロナ対応などの報告し参加者と意見交換している。議事録は各家族に送付、各ユニット入り口にも設置し周知を図っている。直近の5月の会議はコロナ禍の影響で開催できず、紙面報告となる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の高齢福祉室や福祉指導監査室に随時、連絡をとり指導・助言をいただいています。また、コロナ禍以前は吹田市の事業者連絡会や地域ケア会議に出席し、関係性を築けていました。現在は他のGH管理者とはLINEなどで、やり取りしています。	管理者は吹田市介護保険事業者連絡会認知症対応型共同生活部会、ケアマネージャーは地域ケア会議に参加し情報交換してきたが、コロナ禍のため現在は会合が開催されていないので他の六グループホームの管理者と電話や携帯通信アプリのLINEを使って介護加算などの情報交換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の体制及び防犯上の都合から2階エントランスの玄関(道路に直結)は施錠しています。離設の危険性から玄関の鍵を外すには厳しい部分があります。	事業所には身体拘束廃止指針を備え、身体拘束委員会を3事業所合同で毎月開催し、合同研修を年2回以上実施している。正面玄関は施錠しているが事業所内は自由に移動できる。夜間、転倒リスクのある利用者にはケアプランを作成し家族の同意を得て離床センサーベッドは使用している。それ以外の身体拘束の事例はない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会(管理者及び各ユニットリーダーの役職者で構成)での取り組みや外部研修への参加及び施設内における内部研修を行い、人権意識の向上に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修に参加し、また利用者の方においては現在4名の方が成年後見制度を活用されています(後見1名、保佐1名、補助1名、親族後見1名)また、担当される弁護士、司法書士との連携を密にしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書と契約書を家族様に説明し、理解、納得していただけるように対応しています。また、再度の申し出があった場合は、再説明を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様との関わりを持つ際に要望などをお聞きし管理者や職員間などで情報を共有するように取り組んでいます。また、運営推進会議に参加をご案内し意見や要望を聞くようにしています。参加できない家族様には運営推進会議開示資料を送付して、ご意見やご要望を聞くようにしています。	コロナ禍の中、家族とは利用者の状況報告の電話連絡の際に家族の意見や要望を聞き、対応をしている。リモート面会を実施したり、可能な時には玄関でのガラス越し面会を実施している。毎月のお便りに掲載の行事予定表記にも家族の意見を取り入れて改善を図っている。また利用者の要望でテレビのリモコンを簡単リモコンに交換して喜ばれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のグループホーム会議においてスタッフの提案や意見を聞く機会を設けるとともに提案などは随時聞くようにしています。また、その意見を運営などに反映しています。	管理者は毎月のグループホーム会議の中や日頃の勤務の中で、職員と話し合い意見を聞いている。特に管理者は自ら現場のケアに入り、現場でのケアの方法について職員と忌憚なく話し合う機会を設け、互いの意見を尊重しながら事業所の基本方針に立ち返り利用者にとって最善のケアの実現に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ個々の頑張りや努力また勤務状態及び勤務態度などをみて仕事での目標設定やスタッフの意向を汲んだ職場環境づくりに努めています。今年度より介護プロフェッショナルキャリア段位制度を導入し、向上心を持って働けるよう職場環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム内における内部研修(認知症ケアの研修を月1回の頻度で行い、また別に施設内研修も月1回の頻度で開催しています。また認知症介護実践者研修の受講を推し進めています。(現在受講者6名)また介護プロフェッショナルキャリア段位制度でのOJTに力を入れて取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	吹田にある事業者連絡会(グループホーム部会)に参加するとともに吹田市のグループホームの若いメンバーで構成されている「わたしにできることプロジェクト」に参加(現在はコロナ禍のためグループLINEで交流)し、同業者との交流に努めています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居される前の訪問調査や事前面談などの機会を設け、不安や困っていることの把握に努め安心していただける関係づくりに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回サービス提供前の事前面談を行い信頼関係の構築に努めています。またグループホームに来られて祭や訪問面談などの機会を設け、家族様の意向や要望、不安、困っていることの把握に努め信頼関係が築けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様との話し合いの中で本当に必要とされているサービスの提供ができるように小規模多機能事業所や特別養護老人ホームなどの他のサービスを提案することもあります。また地域包括との連携をとり在宅への提案が必要な方へは適切にサービス提供ができるように連携をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者本位のサービスとは？という課題に向き合う環境が整ってきたように思います。その中で暮らしを共にする関係について考え、ケアにあたってくれています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の理解と協力のもと、より良いケアとなるように連携を密にとるようにしています。共に利用者を支えていく関係構築に努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係性が途切れないよう、支援に努めている	ここ1年半のコロナ禍で家族様との関係も疎遠になりがちな状況下で馴染みの人や場所との関係性が継続できるような支援が難しくなっています。コロナ禍で対応を模索中です。	コロナ禍緊急事態宣言解除時には家族とは玄関でガラス越し面会を実施していたが、宣言期間中の現在は法人本部の指示に従い外部からの訪問や利用者の外出を一切禁止した。オンライン面会や電話通話を利用している。家族との関係継続には利用者の中には知人からの手紙を受け取っている方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々のレクリエーションや家事を行う中で一人ひとりが孤立せずに過ごせるように努めています。利用者同士の揉め事もありますがスタッフが間に入り対応しています。個別のプランにて対応を充実させていく方向です。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者の方によって入院で退所された後に再度入所された方が当グループホームに3名います。上記の例だけでなく、今後はより多くの家族様と関係性が継続できるように支援していきます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向の把握のためにセンター方式の活用やスタッフの居室担当制を採用し、利用者の意向や要望の把握に努め、難しい時には家族様との連携を密にして利用者本位の立場に立てるよう努めています。	入所前に管理者とケアマネージャーは利用者の自宅や入院先に訪問して、利用者、家族に面接をして本人の意向、要望などをセンター方式のシートを使って把握し、好み、趣味、来歴などを家族から確認してフェースシートに記録し、アセスメントはパソコンデータで担当職員等と情報共有を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談時にはセンター方式(抜粋)を用いての情報収集や面会時に情報を得ています。生活歴や馴染みの暮らしができるように、こころがけています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	プラン作成時においても計画作成者とスタッフが連携を密にし、現状の有する力の把握に努めます。出来ないことばかりに目を向けずに、できることに目を向けて取り組むようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議において家族様(コロナ禍のためTELにて対応)や利用者の意向を聞くこと、訪問看護ステーションの看護師、生活機能訓練のプランニングをお願いしている理学療法士、往診医などの専門家の意見を伺い、より良い介護計画になるよう、状況の把握に努めています。	コロナ禍の現在、計画作成担当者は、事前にかかりつけ医、訪問看護師、理学療法士、担当職員の助言や意見を確認し、家族に電話で意向を聞きながら介護計画書を作成している。短期計画3か月長期計画6か月として、急変時にはその都度変更し家族の了解を得ている。介護計画書は家族に郵便で内容確認を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアを個別の申し送りカードに記入し、ワイズマン(ソフト名)への打ち込みなどで情報を共有し、介護計画の見直しなどに活用しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍における現在、家族面会もままならない状況です。現状ではオンライン面会や2階エントランスからのガラス越しの面会に対応しています。一人ひとりの生活を支えるためにできる対応を考え多機能化に取り組みます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現状のコロナ禍では、難しいのですが以前は、近隣の高齢者施設との連携や自治会などの催しものに参加することやボランティアの方などの力をお借りして豊かな暮らしが送れるように支援していました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	グループホーム1ユニットは日高ドクター(月2回の訪問診療)、グループホーム2ユニットは山本ドクター(月2回の訪問診療)が主治医になります。ドクターと連携を図りつつ、ご家族様の希望をふまえ、受診先を選んでいきます。	利用者・家族の納得と了解を得て協力医療機関の内科の訪問診療(月2回)を全員が受け、歯科(週1回)は希望者が受けている。従来の精神科受診者(1名)は家族と共に管理者が同行の下、現状説明を行い連携をはかっている。理学療法士による個々の身体能力に応じた運動・リハビリの支援や、訪問看護師の健康管理が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	豊中訪問看護ステーション(月4回の訪問、急変時及び体調不良時)の訪問看護師と連携を密にしながら日々の、ご利用者の状況変化や事故の情報を報告し適切な看護や医療が受けられるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時において平成医療福祉グループの豊中平成病院や平成記念病院の看護師、ソーシャルワーカーとの関係構築が進んでいます。また吹田市民病院や徳洲会病院などの病院とも関係構築がすすんでいます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の指針や看取りについての指針をととのえ、家族様に説明や同意を得て、できうる支援を行っています。また施設での対応を主治医や訪問看護ステーションの看護師と連携をしながら施設でできる対応を行っています。	入居時に重度化・終末期の対応についてホームの方針を説明し、身体状態変化時には主治医からの説明と“看取りに関する指針”“医師意見書”の書類を示し、同意書を交わしている。日頃から家族と重度化・終末期に対しての要望を聴き取り、方針を統一している。研修を積み重ね職員教育を行い、昨年は3名の方の看取りを行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時における応急手当や事故発生時における応急手当の基礎訓練を定期的に行っています。(GHで行う会議前の研修時間に急変時対応の研修や消防署から人形を借りてきて心臓マッサージの練習等を行っています)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	大規模災害時に備えての訓練を定期的に実施しています。(火災発生時の想定、水害発生時の想定など)また地域の自治会や特養、ケアハウスとの共同で福祉避難所としての共同訓練を行っています(今年度は実施できず)研修にて地震風水害火災などの知識を身につけるようにしています。	併設の三事業所合同の防災訓練(夜間想定も含む)を年2回実施している。水・食料品の備蓄や段ボールベッドの備品と緊急通報装置・自家発電機・緊急時の全館施錠解除装置を整備している。自然災害対応の訓練は随時実施し、地域の福祉施設避難場所の指定を受けて、日頃から実践的な取り組みに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格に配慮したケアになるように人権研修や虐待防止・身体拘束廃止・接遇委員会での取り組みを行い啓発活動を行うとともに現状に合わせた取り組みを行っていきます。	その人の立場になって考えると共に、一人ひとりの声に耳を傾け寄り添いながらどのような暮らし方がベストかを掴みとり、研修や勉強会を通して意識の徹底を図っている。言動に不適切な場合は管理者がその都度注意を促して、事業所の方針の振り返りを行い、人格を尊重したケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己選択、自己決定できる利用者との差があります。自己選択、事故決定できる利用者の方は意思の尊重を自己選択、自己決定の難しい利用者の方には、その方の最善の利益が得られるように考慮します。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望に添えるように日々の生活の中で予定として取り入れ、取り組むようにしています。現状においては業務優先の時も見受けられますが、そうならないように取り組んでいきます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみや、おしゃれに配慮できるようまた希望に添えるように心がけています。スタッフの女性職員がお化粧やマニキュアなどの支援を積極的に行ってくれています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備においてはホーム内でご飯の炊飯を行い炊き立てのご飯を召し上がっていただき、片付けなどはテーブル拭きや洗い物などを利用者とともにしています。また利用者により食事量の少ない方は施設食を中止して、ご本人の嗜好に合わせた食事を購入し、召し上がって、もらっています。	管理栄養士作成の献立で、1階厨房で調理された食事をしている。年齢・体格・基礎疾患(糖尿・心臓・腎臓病)などに配慮した味付けやカロリー計算のメニューと、普通食・軟菜食・ソフト食の形態を吟味して、個々に合った食事内容を提供している。クレープのおやつや昼食バイキング・行事食を毎月取り入れて食事を楽しめるように工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりに応じた食事になるよう現在では栄養補助食品＋補食の対応であったり、水分をゼリー対応（お茶ゼリー、ポカリゼリー）にした甘い飲み物しか飲まない利用者にはシュガーカットを使用する対応を行ったりして個人個人に合わせた対応になるよう心がけています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、ご本人の状態に合わせ、通常の歯ブラシやタフトブラシ、歯間ブラシまたは口腔ウエッティーを使い分けています。また訪問歯科クリニックの歯科医より指導を受けて個別の対応を行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりに合わせた排泄になるように多様な種類のパットや個別の排泄誘導（個人の排泄パターンに合わせて）をできるように取り組んでいます。今後も状況に合わせた対応になるように観察をしっかりとしていきます。	トイレでの排泄が基礎体力の向上と自尊心・羞恥心の配慮に繋がると捉え支援をしている。布パンツ(3名)オムツ(2名)他の人はリハビリパンツと仕様形態は様々だが、日中は全員がトイレでの排泄を行っている。夜間はポータブル使用者が2名で、定時誘導を基本としているが、個々のパターンで声掛け誘導を行い安眠重視を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	訪問看護ステーションの看護師と情報を共有し、水分量の確保や腹部マッサージなどを行っています。また運動不足にならないように理学療法士と連携をとり、個別の機能訓練に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望に添えるように声掛けやタイミングをみて入浴しています。仲の良い利用者二人での入浴希望であったり、入浴拒否のみられる方にはスタッフが交代しての対応や同性介助を希望される方には希望に添えるように対応しています。	週2回の入浴を基本とし、希望の時間帯で入浴支援を行っている。浴槽の湯量、一人・二人介助、同性介助や身体状態におけるケアの方法を示した一覧表を脱衣所に掲示し職員誰もが、快適で安全な入浴支援が出来る工夫をしている。菖蒲・ゆず湯や入浴剤を使用して、季節感や変化を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の希望や体調に合わせて1日1回の昼寝時間の習慣を大切にしている人や一人ひとりに合わせた寝具類を用意して対応しています。また利用者によってはポジショニングを行い、安楽な姿勢になるように支援を心がけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用法や容量または副作用について薬の変更時や日頃の申し送り時に情報を共有して取り組んでいます。また訪問看護ステーションの看護師や提携先の薬局の薬剤師から指導をいただき、薬に関する知識を深めるよう情報を共有に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、一人ひとりの楽しみや生きがいになることを支援するため、情報をもとにケアプランを作成し、具体的に組み組めるように努めています。昨今のコロナ禍で外出ができない状況でGHではドールセラピーに取り組み気分転換を図っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現状のコロナ禍で外出の支援はかなり厳しい状況です。その中でも、帰宅願望の激しい方には外出をして対応をしています。また、買い物ができないとストレスがたまり情緒不安定になってしまわれる方にはスタッフが付き添い買い物に出かけたり、しています。(マスク等手洗い消毒など感染防止対策を行っています)	コロナ禍以前はホームの周辺散歩や玄関前の花壇や屋上で、外気浴・日光浴を行い季節感を味わっていたが、最近では頻度が少なくなっている。居室内に冷蔵庫を持ち込んでいる利用者の食品補充に、近くのスーパーへ買い物に出かける際は、マスク着用と消毒を徹底して外出支援を行っている。	コロナ渦中での外出は制限があり困難が伴うが、戸外で外気に触れ夫々の要望に沿った外出支援を行い、生き生きと過ごせる生活の確保と、気分転換やストレス発散の機会を増やすことを望む。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人さまの能力に応じて、自己管理できるご利用者には金銭管理をしていただいています。それとは別に自己管理の難しくなったご利用者の方も多く、必ずしもご利用者の希望に添えていない現実もあります。今後の課題として取り組んでいきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者からの申し出があれば、いつでも電話での会話ができるよう対応しています。また、コロナ禍での現状を踏まえ、オンライン面会を活用するようにしています。(現実的にはタブレットに映る家族様が認識できない、ご利用者にもおられます)今後も家族様からの協力を得ながら支援していきます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間における施設環境整備を行い、エントランスの空間をソファやテーブル、椅子などを配置し、過ごせるように配慮しています。また、ユニットごとに個性的な空間づくりを目指して取り組んでいます。	玄関のエントランスは広く空間を取り、テーブル・ソファが配置され談笑できる寛げる場となっている。エントランスを中心に居室ユニットが左右に分かれて配置されている。各ユニット入口に理念・事業所方針・日常生活写真が飾られ温かい雰囲気となっている。全館に消臭・除菌空調設備、リビングに昼・夜間の調光設備が整備され、清掃が行き届いて、快適で居心地良い環境が整っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂及びエントランスが、ご利用者の方の過ごす共用空間になります。食堂のソファやエントランスでのソファが一人になれるスペースになっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や生活雑貨などを持ち込んでいただき、家で生活されていた時の継続性が保てるように支援しています。また、写真などを持ってきてもらい家族や友人との、つながりが感じられるように支援しています。	居室入口に表札を掲示し、馴染みの小物・タンス・写真などを持ち込み、今迄の生活の継続性を保ったその人らしい居室となっている。転倒しやすい利用者には、必要箇所を考慮した手すりを設けて安全面や動線確保に留意した環境を整えている。エアコン・ベッド・クローゼット・防災カーテンを整備して過ごしやすい工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの安全に配慮して環境整備をすすめています。ある利用者の方では居室に手すりを設置してトイレまで自己で行けるように環境整備を行っています。また、トイレまでの案内表示や各居室に表札をつくり設置しています。		